



平成 28 年 7 月 22 日

各 位

会 社 名 アプリックス I P ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役 兼 取締役社長 郡 山 龍
(コード：3727、東証マザーズ)
問合せ先 取 締 役 長 橋 賢 吾
(TEL. 050-3786-1715)

当社 IoT アナログ半導体が英 ARM 社の IoT 用 CPU に対応

～ 海外メーカーの欧州向けパネルヒーターに当社 IoT ソリューションの搭載を実現 ～

当社は、当社が開発した IoT アナログ半導体を ARM Limited (以下「ARM 社」) の IoT 用 CPU に対応させ、海外メーカーの欧州向けパネルヒーターへの搭載を実現したことについて、以下のとおりお知らせいたします。

記

IoT の普及に伴い、より多くの製品がネットと連携することを求められています。特に家電製品の分野では、Bluetooth や Wi-Fi などの通信モジュールの市場拡大に伴う量産効果により、一般消費者が手軽に購入できるような製品への搭載も可能となってきました。しかし、普及価格帯の商品は価格競争が厳しく、高いデザイン性とタイムリーな市場投入が重要で、IoT 化に必要な開発費や開発期間が大きな障害となっていました。

こうしたなかで、当社では、平成 27 年 11 月 30 日付「世界初の家電機器向け IoT 用アナログ半導体を開発～ ジェネリック家電を 1 チップで IoT 製品化 ～」で発表したように、価格競争力の高い家電製品を 1 チップで IoT 製品化する IoT アナログ半導体を開発してまいりました。

今回、当社で開発したアナログ半導体と ARM 社よりライセンスを受けた IoT 用 CPU とを組み合わせ、アナログ半導体部を既存の家電製品の操作パネルにつなげ、ARM 社の IoT 用 CPU 部に通信モジュールを接続するだけで、ブラウザやアプリケーションから HTML5 で簡単に操作することが可能となりました。これにより、デザイン性の高いスマートフォンのアプリケーションやビッグデータと連携するネット上のクラウドサービスを簡単に構築することが可能となり、写真のように短期間で海外メーカーの欧州向けパネルヒーターに搭載することができました。

なお、パネルヒーターへの搭載は、操作パネルの入出力部分に対して当社 IoT 半導体を通じて、表示部への電気信号をキャッチ、通信モジュール経由でスマートフォンやネットワークに通知し、ボタンやスイッチなどの操作部に電気信号を送ることにより、ヒーターの電源 On/Off、温度設定、チャイルロックの On/Off、室温や動作状態の確認等をスマートフォンやネットワークで実現できるようになりました。

上記の場合、液晶表示の入出力部分のみを当社 IoT 半導体に置き換えるアプローチであるため、家電のファームウェアを変更することなく、当社 IoT 半導体を追加するだけで、家電を IoT 製品化することが可能となります。その結果、ファームウェアも含めて製造を中国等の ODM・OEM(Original Design Manufacturing、

ご注意：本リリースは、当社の事業内容等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の投資勧誘を目的とするものではありません。

本資料の内容には、将来の業績に関する予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。よって、その実現を約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。

Original Equipment Manufacturing) 事業者に委託しているというケースにおいても、当社 IoT 半導体を追加するだけで、家電の IoT 製品化が可能となりました。

当社では、ARM 社の IoT 用 CPU と当社のアナログ半導体を組み合わせた SoC (System-on-a-chip) の提供のほか、ARM 社から IoT 用 CPU のライセンスを受けている半導体メーカーに対してアナログ半導体の技術のライセンス提供を行うことにより、収益の拡大に努めてまいります。



以上